

特集 元気な中小企業訪問記17

第1章

激変する経営環境と 中小企業の取組み



「元気な中小企業訪問記」執筆チーム

1. 今、中小企業への期待は大きい

5年前の2019年のことを思い起こしてほしい。元号が「令和」に変わり、翌年にはオリンピック・パラリンピックを控え、新しい時代の到来に期待感が高まっていた。新型コロナウイルスが猛威を振るい、社会が一変することを誰が予想できただろう。それだけ、企業を取り巻く環境は激変してきた。足元に目を向けてみても、コロナ禍から需要が回復する一方、それを担う人材不足が顕在化。原料価格の高騰や急速な円安の進行、少子高齢化など中小企業を取り巻く環境は、ますます厳しさを増している。

一方で、中小企業への期待は大きい。少子高齢化が進行し、限界集落問題も叫ばれる中、コミュニティ維持の基盤となるのは、その地域で活動する中小企業にほかならない。中小企業の維持発展は、すなわち日本社会の維持発展と言っても過言ではない。

成長する中小企業の行動を分析すると、企業の成長には、投資行動が有効だという（出所：中小企業庁「2024年版中小企業白書・小規模企業白書」2024年）。たとえば、人材不足に対応するための省力化や人材確保に向けた投資、環境変化を機会ととらえた新規事業への参入、より成長性の高い海外市場への進出などが挙げられる。たとえ小さい挑戦でも、その結果から次の施策につなげ、最終的には

刻々と変化する外部環境へ対応し、持続的に利益を生み出すことにつながると考えられる。

2. 特集の概要

本特集では、全国各地で成果を上げる「元気」な中小企業を紹介する。東京都の介護事業「フローカ合同会社」、福井県の飲食業「株式会社ぼんた」、山梨県の食料品製造業「株式会社桑郷」、鹿児島県の化粧品製造業「株式会社ボタニカルファクトリー」を取り上げた。所在地や業種、業態は異なるものの、いずれも独自の商品・サービスや人に投資をし、挑戦・成長を続けている企業だ。

各章では各企業の代表に、企業の沿革や注力する取組み、今後の展望などを率直に語っていただいた。各企業では、まず代表自身が「元気」で前向きなことが印象的であった。

中小企業支援機関を対象としたアンケートによると、「2019年と比べて相談内容のジャンルが広がった」と8割以上が回答。事業者から支援機関に寄せられる相談内容は多様化している（出所：中小企業庁「2024年版中小企業白書・小規模企業白書」2024年）。

本特集で紹介する企業の多様な取組み事例が、全国各地で活動する中小企業診断士にとって、企業支援の際の参考となることを、執筆チーム一同願っている。